

りんごのハダニ類の合理的な防除体系（追補）

－ 補完防除剤としてのテブフェンピラド剤の使用法 －

（園試 環境部）

1. 背景とねらい

最も重要なりんご害虫であるハダニ類の防除法の大きな特徴は、各殺ダニ剤の特性を最大限に活用するとともに、抵抗性対策に細心の工夫を凝らしている点にある。しかし、補完防除剤は残効性がやや短く、年次によっては中生品種や晩生品種の果実に越冬成虫の寄生が認められる。また、主力補完防除剤のオマイト水和剤は8月の主力殺菌剤であるベフラン液剤と混用できないので、適期散布されていない圃場が目立つ。このため、速効的で残効が長く、ベフラン液剤と混用でき、しかも従来の殺ダニ剤と交差抵抗性を持たない新しい殺ダニ剤の出現が望まれていた。

本年登録取得されたテブフェンピラド剤（商品名：ピラニカ水和剤）は、効果試験の結果これらの条件を満足することが明らかとなり、防除体系を再構成したので参考に供したい。

2. 技術内容

- 1) ピラニカ水和剤は2000倍で補完防除剤として使用する。
- 2) ピラニカ水和剤を組み入れた防除体系は下表のとおりである。

ハダニ類発生状況	休眠期	落花期	6月		7月		8月			9月
			下	上	中	下	上	中	下	上
リンゴハダニ 越冬卵 多	マ	シ	ナミハダニの発生状況により下欄の体系と組み合わせる。							
リンゴハダニ 越冬卵 中～多			☆	☆	☆			○	○	○
リンゴハダニ 越冬卵 無～少			★	★	★	☆	☆	★		
備考	マ：マシン油乳剤 シ：シトラソソ乳剤 ☆：ニッソラン水和剤、カーラフロアブル ★：ダニトロンフロアブル、サンマイト水和剤 ○：ピラニカ水和剤、オサダン水和剤、オマイト水和剤、マイトサイジンB乳剤、トルピラン乳剤 注1：☆のグループと★のグループは2年に1回の隔年使用とし、毎年使用しない。 注2：（ ）は一般に省略可能であるが、ときに必要なこともある。									

3. 指導上の留意事項

- 1) ピラニカ水和剤に関する注意事項は以下のとおりである。
 - (1) 散布する時は、薬液が眼に入らないように注意する。
 - (2) ベフラン液剤とは混用可能である。
 - (3) 安全使用基準は収穫30日前までなので、8月中旬以降は早生品種に散布しない。

4. 試験成績概要

表1 ピラニカ水和剤のリンゴハダニに対する防除効果

供 試 薬 剤	濃 度	10葉当り寄生虫数				防 除 効 率
		散布前	10日後	21日後	31日後	
ピラニカ水和剤	1000	204.7	1.2	5.0	36.8	93
ニッソラン水和剤	2000	181.7	3.0	0.7	5.8	98
無 散 布	—	190.8	328.0	185.3	77.2	

散布時期：7月16日

表2 ピラニカ水和剤のナミハダニに対する防除効果

供 試 薬 剤	濃 度	10葉当り寄生虫数				防 除 効 率
		散布前	11日後	23日後	35日後	
ピラニカ水和剤	2000	48.5	0.8	8.5	152.2	91
ニッソラン水和剤	2000	33.0	4.8	11.5	54.0	94
無 散 布	—	44.8	131.8	479.2	1075.7	

散布時期：7月29日

表3 ピラニカ水和剤を組み入れたナミハダニ体系防除

供 試 薬 剤	濃 度	散 布 月 日	10葉当り寄生虫数						
			7/6	7/21	8/5	8/20	9/3	9/16	9/27
ダニトロンフロアブル	1000	7/ 6	20.9	1.0	3.2	36.8	3.3	5.2	1.8
ピラニカ水和剤	1000	8/24	↑ ¹⁾				↑		
サンマイト水和剤	1500	7/ 6	19.8	1.8	2.5	29.4	4.0	6.7	4.8
ピラニカ水和剤	2000	8/24	↑				↑		
ニッソラン水和剤	2000	7/ 6	19.2	3.6	3.8	30.9	9.3	8.5	5.6
オマイト水和剤	750	8/24	↑				↑		

¹⁾ ↑散布時期は要防除密度（3頭/葉）到達時期を目安とした

供 試 薬 剤	濃 度	散 布 月 日	寄生果率 (%)		10果当り寄生虫数	
			9/27	10/6	9/27	10/6
ダニトロンフロアブル	1000	7/ 6				
ピラニカ水和剤	1000	8/24	3.8	5.4	0.8	0.8
サンマイト水和剤	1500	7/ 6				
ピラニカ水和剤	2000	8/24	2.5	3.8	0.3	0.6
ニッソラン水和剤	2000	7/ 6				
オマイト水和剤	750	8/24	6.3	9.2	1.0	1.4